

2025年度 入試の 出題傾向

地理

学校法人 河合塾 地理講師 佐藤 裕治

1 はじめに

現行課程に移行し初めての入試は、共通テストでは「地理総合、地理探究」と3科目から2科目選択する「地理総合／歴史総合／公共」として実施された。また移行措置として旧課程の地理Aと地理Bも出題された。国公立大学二次試験や私立大学個別入試では、こうした移行措置は取られず、多くの大学は入試科目を「地理総合、地理探究」としたが、一部「地理探究」のみとして、「地理総合」を入試科目に含まない大学がみられた。図表などの資料を用いた問題や、探究型の授業を想定し場面設定した問題は旧課程でも共通テストに移行して以来多くみられたため、受験生にとっては違和感がなかったと思われる。

2 共通テストの出題傾向

▶ 出題分野と全体の難易度

「地理総合、地理探究」（本試）は大問6題で、**第1問**「食料の生産や消費」、**第2問**「愛知県東部東三河地域の地域調査」は地理総合の分野から「地理総合／歴史総合／公共」の「地理総合」と共通問題で、**第3問**「世界の自然環境と自然災害」、**第4問**「エネルギーと産業」、**第5問**「産業構造の変化に伴う都市の変容」、**第6問**「環インド洋地誌」は地理探究の分野から出題された（表1）。教科書の項目でみると地理総合は「生活文化の多様性と国際理解」と「生活圏の調査と地域の展望」の2題、地理探究は系統地理的考察から「自然環境」と「資源と産業」、日本の国土像と結びつけた「人口、都市」の3題、地誌的考察から1題で、追試でもほぼ同様の大問構成であり、これが今後の標準になると思われる。移行措置として出題された「旧地理B」も現行課程に組み替えてみるとほぼ同様の構成であり、旧課程の共通テストの過去問などで受験対策を取ってきた受験生にも戸惑いはなかったと思われる。また、試作問題の「地理総合、地理探究」では地域調査の大問がなく、「日本の国土像」で小問7問、配点24点とやや偏りをみせたが、本番では

軌道修正され各分野から満遍なく出題された。

大問別の得点率の差は比較的小さく、各テーマの難易度のバランスが取れるような配慮がなされていた。一方、各大問とも正答率の低い小問があり、入試問題として必

表1 共通テスト出題分野別一覧

	2025			2022年
	地理総合、地理探究 本試	追試	旧地理B* 本試	公表 試作 問題
地理総合	地図でとらえる現代世界			
	地図と地理情報システム	○	○	○
	結び付きを深める現代世界			
	国際理解と国際協力			
	生活文化の多様性と国際理解	◎	◎	
	地球的課題と国際協力		○	◎
	持続可能な地域づくりと私たち			
地理探究	自然環境と防災	○	○	◎
	生活圏の調査と地域の展望	◎	◎	◎
	現代世界の系統地理的考察			
	自然環境	◎	◎	◎
	地形	○	○	○
	気候	○	○	○
	自然災害	○	○	○
	日本の自然環境			○
	地球環境問題	○	○	
	資源と産業	◎	◎	◎
	農林水産業		○	○
	エネルギー・鉱産資源	○		○
	工業	○		○
	第3次産業	○	○	○
	交通・通信と観光、貿易		○	○
	人口、村落・都市	◎	◎	◎
	生活文化、民族・宗教	○		○
	現代世界の地誌的考察			◎
	現代世界の地域区分			○
現代世界の諸地域	◎	◎	◎	
アジア	○		○	
アフリカ	○		●	
ヨーロッパ				
北アメリカ		●	○	
南アメリカ			○	
オセアニア	○		○	
日本				
複合地域	●		●	
比較地誌				
持続可能な日本の国土像	○		◎	

◎大問のテーマ ●地誌の大問で取り上げられた地域 ○小問のテーマ・地域
*旧地理Bは地理総合、地理探究の項目に置き換えて示す。

須の学力を識別できることを重視したと思われる。大問の得点率が68.2%と最も高かった**第5問**の図表の判読問題は、丁寧に図を読み取れば正解できるものが多く、特にロンドンの地区別の階級区分図の判読は、ロンドン

表2 共通テストの解答形式と素材形式

	地理B				地理総合、 地理探究	地理総合、 地理探究
	2021年*5	2022年	2023年	2024年	2025年	試作問題
正誤文判定*1	7	5	5	7	7	9
組み合わせ解答	20	19	19	16	18	17
図 (内地形図*2)	27 (2)	31 (1)	32 (1)	30 (1)	25 (1)	37 (2)
表	5	6	4	3	6	3
写真*3	3 (7)	2 (4)	2 (3)	3 (8)	2 (4)	2 (4)
ページ数*4	34	34	34	34	34	36
マーク数	32	31	31	30	30	30
平均点	60.06	58.99	60.46	65.74	57.48	—

図・表・写真の数は、問題中のそれぞれの番号の合計に、資料として示されたものを加えた。
 *1 組み合わせ形式の正誤文判定を含む。*2 地勢図、地理院地図を含む。
 *3 3かっこ内は写真の枚数を示す。*4 空白のページは含まない。
 *5 第1日程。

表3 河合塾「共通テストリサーチ」による設問別正答率(河合塾調べ)(2025年度大学入学共通テスト地理総合、地理探究 本試)

問題番号	解答番号	正答率	問題番号	解答番号	正答率
第1問	1	89.6	第4問	15	68.9
	2	45.6		16	28.6
	3	59.0		17	42.5
	4	67.8		18	55.8
	小計	64.6		19	76.6
第2問	5	71.5	第5問	20	53.5
	6	56.5		小計	52.4
	7	23.9		21	59.8
	8	56.6		22	64.1
小計	52.5	23	46.7		
第3問	9	61.8	第6問	24	77.0
	10	51.1		25	90.4
	11	68.0		小計	68.2
	12	54.3		26	19.9
	13	28.7		27	68.5
	14	88.1		28	49.1
小計	57.5	29	61.4		
			30	71.7	
			小計	51.8	
			合計	57.6	

注) サンプル数は53,162人
 サンプルの平均点は57.6で、「地理総合、地理探究」受験生全体の平均点(57.48)より0.12点高い。大問ごとの小計、合計は得点率を示す。

の各地区についての知識がなくても会話文の内容と図を対応させることで正誤の判定は可能で、正答率は90%を超え、全体で最も高かった。一方、得点率が51.8%と最も低かった**第6問**は、環インド洋地域の地誌問題で、後述の**問1**のサイクロンに関する小問の正答率の低さが影響した。

試作問題では、複数の図を示し相互の関係などを読み取らせる形式が多く、図の数やページ数も多く、時間のかかる問題が多いと感じさせたが、本番では全体のマーク数、問題冊子のページ数、図表、写真などの資料の数(表2)はこれまでの共通テストの「地理B」とほぼ変わらず、試作問題に比べ複数の資料を判読する組み合わせ解答も少なく、時間的には比較的余裕があったと思われる。しかし、昨年度の「地理B」に比べると平均点は8.26点下がり、2021年以來の共通テストとしては最も低かった。

その要因としては、河合塾「共通テストリサーチ」のデータ(表3)によれば、正答率が30%を下回る問いが4問ある一方、正答率が80%を超える問いは3問と、昨年度の9問に比べ大きく減少し、これまでの共通テストでも少なく(図1)、昨年度は4問あった正答率90%以上の平易な問題は1問のみで、高得点は難しかった。

▶正答率の低い問題から見た受験生の弱点

共通テスト「地理総合、地理探究」(本試)で正答率が19.9%と最も低かった**第6問 問1**は、環インド洋地域の図中の4地点のうちサイクロンの上陸頻度が最も低い地域を選ぶもので、赤道付近に位置するソマリア沿岸が正解だが、オーストラリア北西部沿岸を選んだものが45.2%と最も多かった。熱帯低気圧の発生場所と進路は『新詳地理探究』(以下、教科書) p.47にもあり、問題の図中には緯度0°の位置も示されているため、難問とは言えないが、受験生の認識は低かったようだ。正答率が23.9%と2番目に低かった**第2問 問3**(例題1)は、東三河地域のキャベツ、米、サツマイモの1960年

と2006年の行政区域別収穫量を示した図と作物名の組み合わせを選ぶもので、聞き取り調査のメモと陰影起伏図に豊川用水の流路を示した図が参考として示されている。収穫量が大きく低下しているサツマイモは7割以

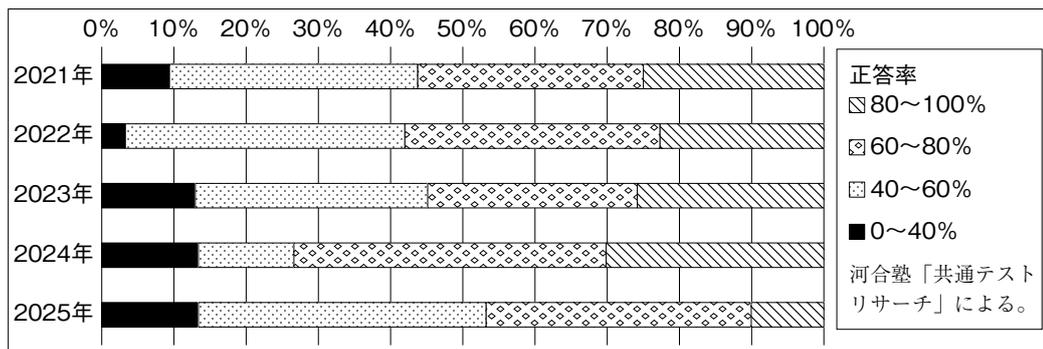


図1 共通テスト正答率別設問数の割合

上が正しく判定できていた一方で、米とキャベツを取り違えた回答が多かった。山間部での収穫量が少ないのを米と判断した受験生が多かったことから、米は平野部で生産されるものと考え、日本では山間部も含め米は広く生産されてきたことには考えが及ばなかったようである。農業についての一般的知識と身近な環境として実体験を通じた農業景観がうまく結びついていないのが、受験生の弱みではないかと思われる。

工業立地論を扱った第4問 問2の正答率も28.6%と低かった。2021年度共通テスト地理B第2問 問4でも、乳製品の工場の立地を輸送費をもとに考えさせる問題が出題されており、仮想地域や立地モデルなどから論理的な思考力を試す出題傾向がみられる。今年度の問題は、原料指数をもとに、醤油製造、石油精製、ワイン製造の立地特性を考えさせる興味深い問題で、資料として示された各工業の製造過程を説明する文では、醤油製造は「水を加えて」、石油精製は「原油を…分離する」、ワイン製造は「果汁を発酵させ」と生産過程での重量変化を示唆していたが、十分にその意図を読み取ることができず、石油精製とワイン製造を取り違えたものが多かった。

▶複数の資料から思考力を試す地理総合らしい問題

第3問は地理探究の系統地理的考察の「自然環境」と「持続可能な国土像」の分野からの大問であるが、問6(例題2)はGISと防災というテーマで、地理総合分野から出題されており、大問を地理総合から2題、地理探究から4題ときちんと分けて出題しているわけではないと思われる。日本のある沿岸地域における津波への備えについて、GISを用いて検討する方法を模式的に示し、分析結果からどのような値が推計できるかを判断させる地理総合らしい工夫された問題である。ただ、資料を用いて丁寧に作れば作るほど分かりやすくなり、正答率は88.1%と3番目に高く、学力を識別する入試問題としてはどうかという見方もあるが、地理総合は何を目指す教科であるかをアピールする問題として評価されてよい。

3 国公立大二次・私立大の出題傾向

▶入試科目は「地理総合、地理探究」か「地理探究」か

入試科目を「地理総合、地理探究」とするか地理総合を含まず「地理探究」のみとするかは、大学によって対応が分かれ、東京大や京都大、筑波大、慶應大などは「地理探究」のみとしたが、実際の問題では「地理総合」を入試科目に含む大学と出題傾向に大きな違いはみられなかった。総合科目を入試科目から外す大学がみられたの

●例題1 2025年度共通テスト本試：第2問 問3 7

問3 レオンさんは、東三河地域の農業がなぜ盛んになったのかを探るため、農家への聞き取り調査結果と、地元の図書館で調べた統計などを次の資料3にまとめた。資料3中のア～ウは、キャベツ、米、サツマイモのいずれかについて、1960年と2006年の収穫量を行政区別*に示したものである。作物名とア～ウとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

7

*2020年時点。

資料3 東三河地域の農業の地域性とその変容

【聞き取り調査結果】

- ・大消費地へのアクセスが向上した。
- ・豊川用水が1968年に開通したことで、栽培する作物が大きく変化した。
- ・東三河地域内では、地形や気候の違いによって作物の収穫量は異なる。

【地形と豊川用水】 【各作物の1960年と2006年の収穫量】

『愛知農林水産統計年報』などにより作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
キャベツ	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
米	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
サツマイモ	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

●例題2 2025年度共通テスト本試：第3問 問6 14

問6 持続可能な国土像を考察する上で、自然災害への備えを検討することは重要である。次の図7は、日本のある沿岸地域における津波への備えについて、GISを用いて検討する方法を模式的に示したものである。図7中の空欄マ～ムには、分析結果から推計できる値a～cのいずれかが当てはまる。マ～ムとa～cとの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

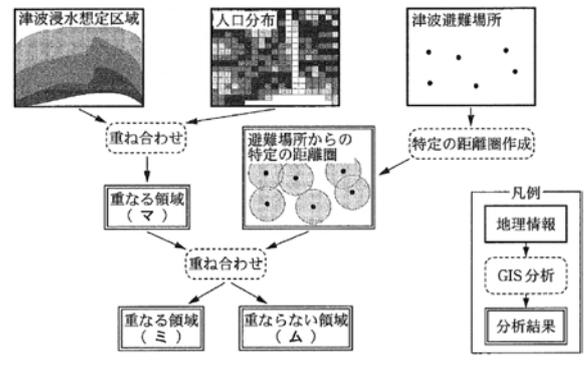


図7

【分析結果から推計できる値】

- a 避難が必要な人数
- b 避難が間に合わない可能性のある人数
- c 避難場所別の避難者数

	①	②	③	④	⑤	⑥
マ	a	a	b	b	c	c
ミ	b	c	a	c	a	b
ム	c	b	c	a	b	a

は、「歴史総合」の扱いと足並みをそろえたためではないかと思われるが、地理では「地理総合」にこれまでの「地理」で扱ってきた内容と大きな齟齬はなく、「地理総合」を含むことに違和感はない。早稲田大学（教育）などでは横並びをとらず「日本史探究」、「世界史探究」、「地理総合、地理探究」を入試科目としている。

▶身近な事象を観察する力や資料を読み取る力を問う

国公立大二次や私立大の個別問題は、大学がどのような力を試そうとしているかが明確に示されている。知識よりは思考力を重視する問題も多く、受験生にとっては初めて見るような資料や、身の回りの地理的事象をもとに思考し、問われている内容を的確に表現する力が試される。

東京大学第3問設問B（例題3）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた地域間の人口移動と人口構成の地域性が問われた。感染症に関しては2022年に人獣共通感染症のリスクについて出題されたが、今回は受験生自らも体験した出来事について論理的に思考する力が問われた。また、一橋大学Ⅱ（例題4）は、日常的に道路を歩いていて不便と感じることの背景にある道路整備の遅れなどを的確に表現する力が試されている。東京都立大学Ⅱ（例題5）は、「最も低い居住部分が地上面より明らかに高い住まい」の地域性を問う問題で、シベリアや東南アジアの高床式についてはよく問われ、ブータンの傾斜に建つ懸造りの住居も地理的知識をもとに解答できるが、そこに日本の大都市の密集した市街地に建つ1階部分をガレージにして2階以上を居住部分とした住居を紛れ込ませ、日常的に見慣れた景色から、その地理的背景を考えさせる出題者の意図には感心する。

▶探究学習を想定した問題

探究学習を想定した場面設定の問題は共通テストでも多くみられるが、愛知教育大学Ⅲ（例題6）は教師が準備したカードを生徒たちがストーリーを考えながら、自動車産業・環境問題・エネルギー問題の因果関係を理解しようとして並べた図から、生徒たちが自動車メーカーが水素自動車の開発に乗り出した理由をどのように考えたかを論述させている。生徒がカードを並べたフローチャートをもとに、その思考のプロセスを考えさせるという問題設定は教育系大学の入試問題ならではの興味深い試みである。

▶地理総合を踏まえたGISを使った私立大の問題

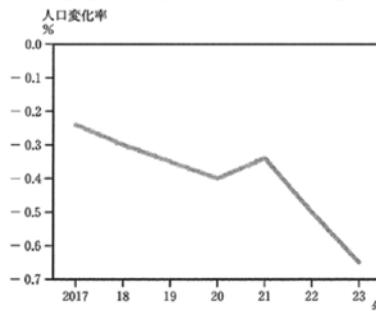
地理総合の「地図と地理情報システム」を大問のテーマとしてGISを本格的に活用した入試問題は、私立大学の個別入試でもかなりみられる。表4はそれぞれ、具

体的にどのような内容の地図が用いられたかを示したもので、幅広いテーマが扱われていることが分かる。設問

●例題3 2025年度 東京大学：第3問 設問B

パンデミックとなった新型コロナウイルスの感染拡大は、日本国内および日本と海外との間の人口移動に一時的な変化を引き起こした。このことに関する以下の問いに答えよ。なお、本問で用いる指標は、住民票の登録（住民基本台帳）に基づいた人口であり、各年の数値は1月1日付けのものである。

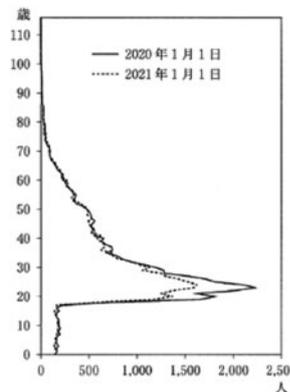
- (1) 図3-5は、日本人について、過去1年間の人口変化率の推移を示したものであるが、2021年にパンデミックと関連して特異な変化がみられる。このような変化が生じた理由として考えられることを2つ、合わせて2行以内で述べよ。



住民基本台帳による。

図3-5

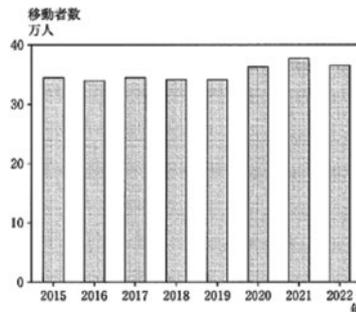
- (2) 外国人について、東京都では2020年と2021年の間に5.4%の人口減少率を記録している。図3-6は、東京都内でこの期間にきわめて高い外国人人口減少率を示した市区町村の1つについて、両年の年齢別外国人人口を示したものである。この図より、この市区町村はどのような特徴をもった地域であると考えられるか、1行で述べよ。



住民基本台帳による。

図3-6

- (3) 図3-7は、日本人について、東京都から他道府県への移動者数を示したものである。2020年と2021年に移動者数が増加した理由のうち、パンデミックと関連した理由を2つ、合わせて2行以内で述べよ。



住民基本台帳による。

図3-7

- (4) パンデミックと関連した人口移動の変化について、住民票の登録に基づく人口ではとらえることができない、より細かな地域単位によるリアルタイムでの人口移動を把握するために用いられた方法を1つ挙げよ。

形式は図の判定や図から読み取れる事項を述べた文の正誤判定や空欄補充などで、いずれもマーク式ではある

●例題4 2025年度 一橋大学：Ⅱ

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

歩行は小径を、道路を、交易の道をつくりだし、身の回りから大陸的なスケールにまでおよぶ土地勘を育み、都市や公園の姿を変えたのだ。地図や旅行案内や装備品を生みだし、そのはるか遠方には膨大な書物の山を築いた。そこには歩行の物語と詩と歌があり、巡礼、登山、彷徨の記録があり、夏の遠足の思い出がある。

(中略)

歩行の黄金時代といえるものは18世紀のおわりごろにはじまっていて、わたしが恐れている通りであれば数十年前に期限を迎えてしまったように思う。対象となる者によって黄金の度合いが異なった不完全な時代ではあるが、そのなかで⁽¹⁾つくりだされた歩くための空間、あるいは歩くことに愉しみとしての価値を見出したという点で、それはやはり目覚ましい時代だった。

(中略)

(レベッカ・ソルニット著 東辻賢治郎訳『ウォークス 歩くことの本質』2017年より引用。但し、一部改変)

問1 下線部(1)について、現代日本において歩行者にとって不便な道路が存在する理由を、都市の変遷や道路に隣接する敷地との関係から説明しなさい。(125字以内)

●例題5 2025年度 東京都立大学(文系)：2問1

問1 次の図4のすべては、最も低い居住部分が地上面より明らかに高い住まいを示したものである。また、A～Dのおおよその位置は、次ページの図5に●印で示している。A～Dのそれぞれについて、最も低い居住部分が地上面より明らかに高い理由を説明しなさい。



A



B



C



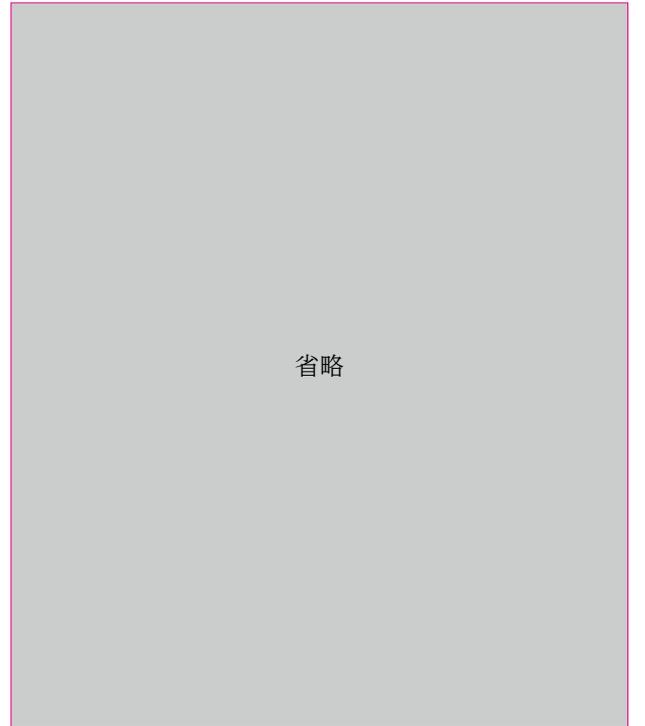
D

図4

https://www.alamy.comによる。一部改変。写真提供 ユニフォトプレス
※図5(省略)は、地図にA(東シベリア内陸)、B(大阪付近)、C(ブータン)、D(ベトナム北部)の位置をマークしたもの。

が、図の相互関係などがきちんと判読できないと正解は難しい。問題の作成には手間がかかるが、論述形式の出題が難しく知識に偏りがちな出題傾向の私立大でも、地理的思考力や判断力を問う形式として今後重視されるべきテーマであろう。

●例題6 2025年度 愛知教育大学：Ⅲ問5



省略

4 論述問題の形式・テーマと対応策

国公立大学の二次試験ではいずれも論述問題が課されるが、全体の分量、設問ごとの字数は大学によってかなり異なる。表5は、主要大学における例を示したもので、論述問題の内容は、単純な用語の説明もあるが、分布図や国・地域ごとの統計資料をもとに地理的事象の地域的な違いの要因に関する問題や、経年変化を示す図表を用いて変化の背景を説明させる問題など、資料の判読と論理的思考力、簡潔な表現力を試すものが多い。こうした論述問題への対策としては、さまざまな資料を読み取り考える力を養うことが重要で、教科書の「探究TRY」やさまざまな図表をコンパクトに解説した『新詳地理資料 COMPLETE』などを使った学習が効果的である。

表4 GISを活用した私立大の問題(2025年度)

大学・問題番号	設問内容
獨協大学 (2/1実施) Ⅰ	神戸市付近の地理院地図と傾斜量図。地理院地図と重ねるハザードマップの浸水想定区域図。各区の共同住宅の建て方別世帯数を示す図形表現図。医療機関、下水道関連施設、消防署、廃棄物処理施設のドットマップ。
獨協大学 (2/2実施) Ⅰ	つくば市付近の地理院地図と4方向からの鳥瞰図。地理院地図と世帯員構成を示すメッシュマップ。茨城県の国・県の機関、鉄道の駅、避難施設、物流拠点の分布図。
立命館大学 (2/2実施) Ⅰ	佐渡島の地理院地図と総人口、標高の3次元メッシュマップ。地理院地図による標高の3次元地図。
近畿大学 (1/26実施) Ⅲ	4つの地域(半島)の陰影起伏図。4つの新幹線駅周辺の陰影起伏図と主な鉄道網、公示地価分布図、人口メッシュマップ、スーパーマーケットの分布図。

表5 おもな国公立大二次の論述問題の分量とテーマ (2025年度)

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ (設問内容)
北海道大学	11	900字程度	80字程度 30～150	▶サブサハラアフリカの食料・農業問題とネリカ米の特性、日本の技術支援。▶日本の輸入食料のフード・マイルレージが高い理由。▶人口1人当たりの輸入食料のフード・マイルレージの計算によるイギリス、アメリカ合衆国、韓国の数値の変化。▶オセアニアの標高の低い島々で海面上昇による土地の水没が生じている理由。▶ニュージーランド南島の山脈の西側の気候の特徴とその理由。▶ニュージーランドのイギリスへの輸出が1970年代に減少した理由。▶スウェーデンの鉄鉱石の輸出が冬季にはノルウェーを経由する理由。▶エスチュアリーと比較したフィヨルドの特徴。▶インドネシアで工業製品(パーム油)の原料となる農産物の生産が引き起こしている環境問題。▶部品などの中間財の貿易自由化が工業生産において重要な役割を果たしている理由(指定語句:生産工程、国際分業)。▶GNIとGDPの違い。
東京大学	19	1170字	62字 30～90	▶北半球高緯度地域の気温上昇が他地域より大きい理由(指定語句:海水や積雪、太陽光、反射率)。▶永久凍土の融解がさらなる地球温暖化を引き起こす仕組み。▶永久凍土の融解による経済的損失とその理由。▶中国の河川流出土砂量の変化の要因。▶東南アジアで河川流出土砂量が増加傾向を示す原因。▶河口砂州が自然災害の軽減や増大に及ぼす影響。▶衣類の企画やデザインを担う事業所や人材が大都市に集中する理由。▶日本の衣類輸入金額に占める中国の割合が低下している理由。▶世界で実際に使用されるよりも多くの衣類が生産されている理由(指定語句:ファストファッション、天候)。▶中古の衣類の輸出入を規制する理由(指定語句:安価、リサイクル、輸入国)。▶神奈川県、愛知県、兵庫県では日本人延べ宿泊者数の規模は大きい、外国人延べ宿泊者数の規模はそれほどではない理由。▶観光客が急増している都市で住民の居住地が変化する理由。▶西表島や白神山などで観光客増大によって生態系が乱れ、生物の多様性が損なわれることを防ぐ方法とそれに対する反対意見。▶首都圏のDID分布が北では放射状に拡大している要因。▶首都圏のDID分布が南西と東で大きく異なっている理由(指定語句:時間距離、港湾都市)。▶首都圏におけるDIDの外側への拡大が1980年代で収束しそれ以上進まなかった理由。▶日本人の人口変化率が2021年にパンデミックと関連して変化した理由。▶東京都内で2020年と2021年の間に外国人人口減少率が極めて高い値を示した市区町村の特徴。▶2020年と2021年にパンデミックと関連して東京都から他道府県への移動者数が増加した理由。
一橋大学	10	1200字	120字 25～150	▶EUでオランダの家畜飼料への輸入課徴金支払い免除の結果は何年頃から何年頃までのどのような変化として現れているか、またEUはどのような国のどのような要請で課徴金制度を見直したか。▶オランダの養豚業が国内外で生じた問題。▶オランダ養豚業の主要な変化傾向と養豚家が行っている国内の環境問題に対応する経営戦略。▶現代日本で歩行者にとって不都合な道路が存在する理由。▶1941年のラスヴェガス・ストリップの出現が歩くことと自動車の関係に生じた変化。▶ラスヴェガスが発展した背景と持続可能性に関する課題。▶ニューヨークとワシントンD.C.の生活環境の違いを地下鉄、高層ビルなどの資料を読み取って説明。▶外国からの送金はODAや民間資金の流れのもつどのような問題点を補い、一国の社会経済の発展を担うものとなりうるか。▶外国への人的資本の送り出しが、送り出した国の経済発展に対してもつ良い面と悪い面。▶日本における主な在留外国人の推移を示した図から1国を選び、その国とA国(ベトナム)の移民送り出しに至った共通点と相違点。
名古屋大学	17	1600字程度	100字程度 60～300	▶図中の2都市(ベルリン付近、バイカル湖付近)の一年間の気温の特徴と両都市で違いが生じる理由。▶図中の範囲(チベット付近)でツンドラ気候が分布する理由。▶ケッペンの気候区分の気候区分の範囲が今後変化していくことが想定される要因。▶水稲栽培に有利となる気候および地形の条件。▶水稲栽培に有利な条件が得られない場合に必要となる農業技術。▶地形図読図[図中の集落の地形からみた立地上の利点/2つの集落名(日南・陰地)が付けられた理由/丘陵地の植生と土地利用の特徴]。▶バンクーバーにおけるICT産業発展の地理的優位性(指定語句:時差、シリコンバレー、生活費)。▶図中の2つのカナダの州(ブリティッシュコロンビア、ケベック)の使用言語別人口の比率が大きく異なる背景。▶アフリカの資源国で鉱産資源の豊富さが経済発展の足かせとなりうる理由。▶ナミビア西部に広がる砂漠の形成の仕組み。▶東南・南アジアにおけるマングローブ林減少とその要因の変化。▶アフリカで乳幼児死亡率を下げるために必要な取り組み。▶都道府県別太陽光発電、地熱発電、風力発電の年間発電実績(電力量)分布の特徴。▶太陽光発電や風力発電が発電量を一定に保ったり自由に出力を変えたりすることが得意でないことを克服するための日本や外国の対策。▶国際海運や国際航空の分野における温室効果ガスの排出削減がバリ協定で義務化されなかった理由。
京都大学	21	600字程度	30字程度 20～140	▶図中の2地域(ウラル山脈とカムチャツカ半島)の地形の特徴と成因。▶ロシアの大都市の分布の特徴と気候との関わり。▶ロシアの原油、天然ガスの陸路での輸送手段の名称とその長所と短所。▶世界を経済水準に基づいて地域区分する際に、国が単位地域となる理由とそれによって見えづらくなる地域差。▶自由貿易協定(FTA)と経済連携協定(EPA)の違い。▶地図に示された地域区分法(等質地域)の特徴。▶GDPと輸出に関する表中のB国(中国)や発展途上国の輸出が2000年代以降増加した理由。▶D国(ケニア)の最大輸出品目がX(紅茶)である歴史的背景。▶E国(サウジアラビア)が特徴的な経済構造からの脱却のためにとっている政策。▶過疎化が農村の暮らしに与える影響。▶A国(ナイジェリア)の主要作物の土地生産性の変化の表から読み取れる農村の貧困や飢餓が改善されない理由。▶B国(韓国)で1980年代の農村人口割合が大きく低下した時期に生じた経済と人口分布の変化。▶C国(フランス)が加盟している国家連合(EU)の農業支援策が重視する農家が有する農業生産以外の役割。▶D国(ニュージーランド)で生乳1000tあたりのバターの生産量がデンマークより高い理由。▶新旧地形図読図[図中に示された範囲がCBDにあたる根拠/工業団地が建設された背景にある都市問題/コンビナートが臨海部に立地する利点/住宅地建設における地形変化/年齢別人口構成グラフから読み取れる入居者の特性]
大阪大学	7	900字程度	130字程度 50～200	▶イラク、イラン、サウジアラビアの乾燥地で見られる農業用水確保の取り組み。▶イエメンとカタールの人口増加の理由の違い(指定語句:人口転換、社会増)。▶アラビア半島東西の海峡(ホルムズ海峡、マンダブ海峡)を通過する船舶の種類別割合と貨物量の推移の判定とその判断理由。▶2010年代以降世界の石油輸出における西アジアの占める割合が低下している理由。▶ライン川の上流部で流路の方向が大きく変わっている原因。▶国際河川が流域の社会経済へ及ぼす影響。▶ブルーバナナの範囲と産業の特徴。
九州大学	6	850字	140字 100～200	▶地形図読図[図から読み取れる河川の特徴/図中の集落周辺の土地利用の特徴]。▶人口ピラミッドと市内の学校の種類と数、産業別就業者割合の表から読み取れる当該地域(愛媛県西条市)の人口構造の特徴。▶南アフリカでワイン生産が盛んな背景(自然環境と歴史)。▶サハラ以南アフリカで多言語使用の状況が生じた歴史的経緯。▶中国がアフリカ諸国との政治・経済的な関係を強化している背景(指定語句:一帯一路、インフラ、資源)。